

令和5年度 学校評価書 (計画段階 実施段階)

福岡県立遠賀高等学校

29

自己評価

Table with 3 columns: 学校運営方針, 学校運営計画(4月), 評価(総合). Includes sub-sections for 学校運営計画(4月) with 年度重点目標 and 具体的目標.

A

学校関係者評価

Table with 2 columns: 評価(総合), 自己評価は. Includes criteria A: 適切である, B: 概ね適切である, C: やや適切である, D: 不適切である.

A

Table with 5 columns: 評価項目, 具体的目標, 具体的方策, 評価(3月), 次年度の主な課題. Includes rows for 教務, 生徒指導, 進路指導, 研修.

Table with 2 columns: 項目ごとの評価, 学校関係者評価委員会からの意見. Includes detailed feedback text for each category.

A

A

A

A

○学年 貴校の指導課題である生徒指導の徹底が

人権教育	人権尊重の視点に立つ授業を推進する。	人権課題（「いじめ問題」を含む）に関する学習を充実させ、職員・生徒の認識を深める。	A	A	A	○人権・同和教育において、多文化共生に関する内容を取り入れ、個々の人権感覚を育むことがより重要である。 ○特別支援教育支援員及びボランティアが配置された。特に支援員の活用内容を整理し、特別支援教育の視点や学校の福祉的な役割を考え今後の生徒支援に活かすことが課題である。 ○学校訪問では、水巻南中学校を訪問し授業を参観し、学習支援や学校生活について意見交流することができた。その重要性から今後も継続したい。
	生徒の実態把握と生徒支援の充実を図る。	事務室等と連携し、経済的な理由による中途退学の防止に努める。	A			
	校内の特別支援教育の取組の充実を図る。	教育相談や支援内容(「個別的教育支援計画」等の活用)を充実させ、効果的な学習支援に努める。	B	A		
	健康に関する自己管理の意識向上と健康課題を改善・克服する資質を身に付けさせる。	定期健康診断を通じて、各自の健康状態を把握し健康増進に努める。	B	B		
保健	生徒の現状・実態を把握し、全教職員での情報共有に努め、教育相談の充実も図る。	保健室利用の際や健康診断受診時の挨拶やマナーを守る態度を育成する。	B	A	B	○新型コロナウイルス感染症は5類に移行されたが、感染症に限らず自己や他者の健康に関心を持つ生徒を育成する。 ○本年度も多くの生徒・保護者がSC、SSWへの相談を行った。学年主任、担任とSC、SSWとの情報交換や意見交換の場を設定しより良い生徒への支援を模索していく。 ○食堂と連携し、ポイ捨てを減らすためにテイクアウトメニューの選定を行った。美化厚生委員会の活動などを通し、マナーを守る態度を養う。
	校内および学習環境を整備し、公共物を大切にす公徳心を育成する。	掃除場所での開始・終了の挨拶を徹底し時間いっぱい掃除をすることで校内美化に努める。	B			
	生徒の主体的な活動による広報活動の充実を図る。	ボランティア活動等を通して地域と連携した生徒の取組を推進する。	A	A		
	受検者数を増加させる。	HPやSNS、広報誌等を中心に、中学生や保護者に本校の特徴を理解してもらう。	A	A		
広報	PTA活動の活性化を図る。	PTA総会や体育大会、文化祭などの学校行事に対し、保護者の積極的な参加を促す。	A	A	A	○出前授業、体験入学、進路説明会、中学校訪問を通して日頃の教育活動や情報科学コースの新設についての宣伝を十分に行うことができた。教育活動の宣伝としてはインスタグラムを活用し、中学生や保護者にしっかりとアピールすることができた。 ○PTAと連携し、学校行事では多くの保護者の協力を得ることができ、PTA活動の活性化を図ることができた。 ○志願倍率を上げるために、今後、より様々な角度からのICTを活用したアプローチが必要になると考える。
	PTA活動の活性化を図る。	PTAとの活動において新たな取組を模索し、活性化を図る。	A			
	実験実習の充実を図り、「遠賀スタイル」でのわかる授業の推進に努める。	各担当農場において安全教育を徹底し、実験・実習を効果的に行い、体験学習を通して学習内容の充実を図る。	A	A		
	学科生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。	学科の生徒の希望進路を把握し、学年・担任と連携して適切な進路指導を行う。	B	B		
農場	地域や各関係機関との連携を図り、学校活性化に努める。	学校行事や生産物等の販売を通して地域との交流活動を実施する。	A	A	A	○安全教育を徹底し、大きな事故や怪我無く実習を行うことができた。学習内容の充実を図るためにも1年生からプロジェクト学習を推進していく必要がある。 ○進路指導については学年・担任と連携した指導をし、農業大学校へ3名進学することになった。ただ、農業系の4年制大学に進学する生徒がおらず、1年生から進路指導を行い、学年と連携した積極的な進路指導を行っていく必要を感じた。 ○地域イベントや販売会では、加工品や生産物販売を通して生徒と地域住民の交流活動を実施することができ、地域や学校の活性化に繋がった。次年度以降も関係機関との連携を深めていきたい。
	地域や各関係機関との連携を図り、学校活性化に努める。	地域関係機関との連携や地域イベントへの参加、商品開発などにより学科のPRを行う。	A			
	基本的な生活習慣を身につけさせ、全日制高校生としての生活基盤を固める。	基本的な生活習慣を身につけさせ、各クラス欠席・遅刻ゼロ日を10日以上とする。	C	B		
	基礎基本を中心に学力を向上させるとともに勉強方法を身につけさせ、意欲を高める。	学年を挙げて校内検定の合格に力を注ぎ、GTZD2以上を目指す。	B	B		
第一学年	卒業後を見据えた進路意識の育成と愛される人間性の育成をはかる。	様々な進路行事や学校行事を通して自己と社会を知り、将来像を思い描かせることで意欲をもって生活させる。	B	B	B	○欠席遅刻ゼロ日10日間はどのクラスも達成することができなかった。次年度はコース選択後の新クラスにおいて、心機一転遅刻欠席ゼロに取り組んでいく。 ○学力の向上については、分割授業の実施が難しく効率よく指導ができていたとは言えない。今後も継続的に指導する必要がある。また、登校しているものの授業に参加しない生徒については、積極的に保護者と連携し指導することで参加状況は漸次改善した。規則を遵守することを丁寧に教える必要がある。 ○各行事の参加状況は概ね良かった。次年度以降に学校行事を牽引する学年となることを期待したい。
	卒業後を見据えた進路意識の育成と愛される人間性の育成をはかる。	リーダーシップの育成することで集団活動の重要性や難しさ、やりがいを感じさせる。	B			
	基本的な生活習慣を体得させ、遠賀高校の中核としての規範意識の向上を図る。	家庭との強固な信頼関係を構築し、生徒の修学を支援できる環境を作る。	A	A		
	授業を根幹とした学習の積み重ねにより学力を向上させ、自尊感情を高めさせる。	規律の遵守を徹底し毎日の授業に落ち着いて取り組むことで、学年全体の学力の底上げを図る。	A	A		
第二学年	様々な体験活動を通して希望進路を決定させ、その実現に近づけさせる。	インターンシップ、オープンキャンパスに参加させ、具体的な進路実現に向けて考えさせる。	A	A	A	○各クラス欠席・遅刻ゼロ日を15日以上という目標を立てたが、達成できなかった。遅刻・欠席がゼロの日は2組、4組の1回のみであった。次年度は生徒の学校への意欲を改善し目標を達成させたい。 ○規律の遵守に関しては完璧とは言えないものの、授業中の態度や提出物の状況がよくなった。身嗜みに関して次年度は更に厳しい指導が必要である。 ○インターンシップ、オープンキャンパスの取組状況は良好であった。次年度の進路決定に向けて学年一体となって生徒一人ひとり納得のできる進路選択ができるよう、サポートをしていく。
	基本的な生活習慣を身につけさせ、各クラス欠席・遅刻ゼロ日を15日以上とする。	各検定、定期考査等で具体的な目標や習得内容を明示し、努力させ、達成感を味わわせる。	A			
	基本的な生活習慣を身につけさせ、各クラス欠席・遅刻ゼロ日を10日以上とする。	進路実現の準備として基礎学力を定着させ、進路選択の幅を広げられるようにする。	B	A		
	基本的な生活習慣を継続させ、最上級生として模範となる生徒を育成する。	家庭との信頼関係を継続し、生徒の修学を支援できる環境を作る。	A	A		
第三学年	授業を根幹とした学習の積み重ねにより学力を向上させ、進路実現につなげる。	毎日の授業に落ち着いて取り組み、新評価方法に対応できるように学力の底上げを図る。	A	A	A	○欠席・遅刻ゼロ日に関しては目標は達成できなかったが、生徒と話し込むことで生徒理解を深め、生徒の希望進路の実現のためのサポートは十分にできた。 ○2月から卒業までの残り少ない学校生活を突りあるものにてきた。また、この3年間の学びや経験を次の学年に継承できるように積極的に職員間で情報共有したい。進路指導については進路指導部と更なる情報共有及び連携を十分にしながら進めていく必要がある反面、全てを進路指導部に任せないで、学年でもイニシアチブを握り、進めて行く必要を感じた。生徒全員が進路を達成できるまで指導を継続していく。
	希望進路の実現を通じて、社会に寄与できる力を身につけた生徒を育成する。	様々な活動を通じて自己を見つめ、将来を思い描かせることで意欲的に進路実現を図らせる。	A			
	希望進路の実現を通じて、社会に寄与できる力を身につけた生徒を育成する。	進路決定率100パーセントを達成させる。	A	A		
	希望進路の実現を通じて、社会に寄与できる力を身につけた生徒を育成する。	社会で必要とされる挨拶・素直さ・謙虚さを学校行事を通して身につけさせる。	A			

A	3学年にわたってなされたことで、先生方や管理職の苦労の結果が140名以上の新入生の確保に繋がったのではと思います。生徒指導や学習指導等で大変御苦労されている日々の教育状況の中ですが、学力の高い生徒や就学意欲の強い生徒への指導の強化が更になされると、有名大学への進学など遠賀高校のスクールブランドの強化が一層なされると思います。 ・3年間の一貫した教育の中で積み重ねられた成果が最終学年で出たと思います。 ・2年生の修学旅行では、福島の被災地に出向くなど、「修学」としての機能をしっかり果たしていると思われる。
B	
A	評価項目以外のものに関する意見 ○学校経営方針等 ・少子化の中で多くの高校が学生募集で苦戦する中、貴校が140名以上の新入生を確保できたのは、入学への基礎学力の徹底と基本的な生活習慣の指導の徹底など、管理職と現場教員の協働が功を奏し、貴校に対するイメージの向上が地域社会に浸透した結果ではないかと思えます。 ・運営方針・重点目標・具体的目標と具体化することにより、一步一步ではあるが、遠賀スタイルの成果を上げることができたと思う。 ・進路の現状を踏まえ、規範意識の醸成と社会モラルの育成について重点を置いて計画されており、学問だけでなく社会人としての人間形成に適切な指導方針で、それをしっかりと実践されている。 ○その他 ・従来の教育システムになじみにくい生徒を多く抱えながら、全日制普通科及び農業食品科の教育課程を実施しなければならないのは、本当に大変なことだと痛感いたします。遠賀郡唯一の高校であり、地域社会の期待にも応えていかれていることは並大抵のことではないと想像いたします。遠賀高校に入学したことで生徒達の成長の効果が地域社会から認識されているからこそその入学増と思えます。引き続き、貴校の発展のために御尽力いただけますと幸いです。 ・私どもの法人で調理や介護で入職し5～10年経つ貴校の卒業生は、入職時と変わらず礼儀正しくはつらつとした仕事ぶりに高齢者の方々や他職員からも信頼を得ており、大変嬉しく思っています。 ・人間としてはまだまだ未熟な生徒たちに対し、教員の方々の丁寧な指導と情熱のこもった想いが感じられ、非常に一体感のある教育環境であることが伺える。今後益々の学校の成長に期待したい。
A	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・誰もが理解しやすい評価にするために、具体的方策の中に数値目標をできるだけ設定する。
- ・観点別学習状況評価を徹底するために、職員研修を実施し教科内での意思統一を図る。
- ・規範意識を育成するために、生徒指導の在り方を検討し実施する。
- ・生徒の進路目標の達成のために、組織的段階的に進路に関する取組を実施する。
- ・生徒の組織的な健全育成のために、分掌と学年の連携の在り方を検討し実施する。